

保護者の皆様、日頃は津和野高校のPTA活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。
今年度も卒業生を送り出す時期となりました。3年生の卒業を迎えるにあたり、原稿を寄せていただきましたので、ご紹介いたします。

「夢」PTA会長 松浦利幸

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様が立派に成長され、卒業を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

卒業生の皆さんへ津和野町の隣、萩市で生まれ、明治維新に関わる多くの人材を育てた吉田松陰の言葉で「夢なき者に成功なし」という言葉を送ります。

夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。

これは「夢」を持つことからすべてははじまるといった言葉です。現実問題、夢があっても成功するとは限りませんが、夢を持たない限り成功することはありません。理想をもち、計画し、実行するというプロセスをやり遂げ、自分の成功を掴みとってください。

ただし、夢というのは進学や仕事に限定してはいけないのではよ。進学や仕事は手段であってその先にあるぼんやりしたものが夢だと、皆さんが講演を聞いた植松努さんが言うておられましたね。

夢は必ず持たなければならないものではありませんが、自分なりの夢を持って欲しいと思います。人生を切り開く原動力となってくれるはず。皆さんのこれからに期待しています。

「卒業にあたって」3年1組保護者 西村智子

ある日、偶然に観た「NHKBSにつぼん縦断こころ旅」という番組で、火野正平さんが訪れていた津和野。それが私たちと津和野高校との初めての出会いでした。そこから、地域みらい留学制度を知り、寮生活を送りながら野球がしたいという息子の希望に合うのではないかと受験を決めました。

入学後、息子からの連絡はほとんどなく、また私の方からも、「早く環境に慣れるよう、親からの連絡はできるだけ控えた方が良い」という知人の助言もあり、連絡は必要最低限に。おそらく、困ったこと、しんどかったこと、迷ったこともあったかもしれませんが、息子なりのSOSを仲間や大人の方に発することができたのではないかと、そして、そのSOSを受け取ってくださった周りの方々に、どれほど助けていただいたことかと想像し、感謝の気持ちでいっぱい。あたたかく見守ってくださり、ご指導いただいた先生方、地域の皆様、お世話になりました方々に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。兵庫県に住む私たちにとって、津和野って島根県なんだ...というくらい認識がなく、縁もゆかりもなかった場所が、かけがえのない地となりました。

最後になりましたが、今後の津和野高校のご発展と、卒業生の皆様のご活躍をお祈りいたします。

「3年間の感謝を込めて」3年2組保護者 佐々木 尚子

ご縁とは本当に不思議なものです。島根県も津和野町も全く知らなかった私たちですが、この3年間で、津和野に魅了され、今では第二の故郷のように敬愛しています。

息子は自分に合った高校をなかなか探せず、中学3年生秋頃まで進路に悩んでいました。「様々な人と出会い、成長できる高校に進学したい」そんな漠然とした思いを持っていた彼は、地域と密着し探究活動のできる津和野高校と出会い、ここに勝る高校はないと決断し挑戦した受験でした。あの寒かった受験の日が「彼の人生」のスタートの日だったのだと、今思い出され、3年前の入学式の少し切なく、しかし誇らしい、複雑な気持ちが昨日の事のように湧きあがってきます。

晴れて卒業される皆さん、悩んだり、葛藤したり、辛いこともあったのではないのでしょうか。しかし、この3年間の全てがいつの日か、皆さんの人生の宝になると信じています。

私の大好きな言葉を紹介。「人は長所で尊敬されて、人は短所で愛される」誰だって、長所も短所もありますが、その全てを大事にしてほしい、自分の強みも弱みも全部を抱きしめながら、一度しかない人生、そしてかけがえのない「今」を悔いなく、たくましく生きていってほしいと切に願います。

そして、ご両親はじめ、出会った全ての方が皆さんの人生の応援団であること、忘れないでほしいと思います。
改めまして、諸先生方、地域の皆さん、津和野高校に関わってくださっている全ての方々に保護者を代表し感謝申し上げます。
卒業おめでとう、そしてありがとう。

「はじめの一步」 校長 松田 哉

早いもので、お子さまの入学から3年が経ちました。3年前の入学式の校長式辞を紐解いてみると、北大路魯山人の『料理の第一歩』という作品が紹介されていました。正しいことをああしよう、こうしようと常に考えている男が、何一つ実行に移すことなく、ひたすら考えることと食べることだけを繰り返し、しまいには、自分の足も手も胴も食べてしまい、頭だけになってしまったという話です。「やってみたい」を「やってみる」のがツコウですが、気持ちがあっても行動に移すことは本当に難しい。作者は行動に移すためには決心が必要だと説いています。果たして、子どもたちはこの三年間でどんな決心をし、どんなはじめの一步を踏み出すことができたでしょうか？津和野で踏み出した一步一步が自信となり、次のステージではじめの一步へと繋がることを祈念しています。

「卒業生のみなさん、保護者の皆様へ」 3年1組担任 陶山 晋太郎

「鳥（からす） なぜ啼（な）くの 鳥は山に 可愛（かわい）い七つの子があるからよ」

皆さんご存じの童謡「七つの子」。この歌の出典は中国の古典『詩経（しきょう）』です。「鶉鳩（しきゅう）」と題する詩に「鶉鳩 桑に在り、其の子七つ。淑人君子 その儀 一なり。その儀 一なれば、心 結ぶが如（ごと）し」とあります。つまり、かっこう（鶉鳩）が桑の木にいる。その雛（ひな）が七羽。[みなすくすくと育っている。これは、母鳥がみんなを可愛がって、愛情を平等に注いでいるからだ。それと同じように]立派な人（淑人君子）は、[誰に対しても]態度（儀）は変わらない。このように一定（一）なので、心が結んだようにしっかりしている。

さて、一月九日の人権学習を覚えていますか？授業後に書いてもらった感想を一つ紹介します。

「身の回りで結婚差別を経験した人に会ったことがないので授業で扱ってもどこか遠い存在のように感じていました。これから社会に出ると、どんな人と会おうか分からないが、どのような人に対しても平等に接することや偏見や差別せず、誰もが暮らしやすい生活が送れるようにしたいです。」

私は、ご家族の愛情をしっかり受けて育った皆さんと出会えて幸せでした。今後、皆さんは、様々な人と会おうでしょう。どうか、これからの出会いを大切に、元気で過ごしてください。

「万葉の花」のごとく、皆さんが笑顔満開の人生を送れることを願ってやみません。



「きっと、それが何かを知るということだ。」 3年2組担任 川上 真

「きっと、それが何かを知るということだ。」これは、「チ。ー地球の運動についてー」というアニメで、地動説について知識を得たオクジーが「ずっと前と同じ空を見てるのに、少し前から遠く見える。」と言った際、地動説を唱えるパデーニが応えた言葉である。

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんはこの1年で何を「知る」ことができましたか。受験を通して様々な「知（チ）」を得てきたのではないのでしょうか。そしてオクジーがそうであったように、みなさん自身の内面にも少なからず変化があったのではないのでしょうか。私は何を学びたいのか、どのような大人になりたいのか、何が好きで、何が得意で、何が苦手なのか。。。そして、今も自身の選択に不安を抱えている人もいます。共通して言えることは、今後生きていく中で物事や自身に対する見方、考え方が変わっていくということです。そしてそれは、おかしなことではなく、経験することによって生じる当たり前の事象だと思います。

高校卒業後、経験の選択肢は今よりはるかに自身に委ねられます。積極的に新しい「知」を獲得し、新しい景色、新しい自分を見つけていきたいですね。

卒業 おめでとう!



〈今後の主な行事〉

- 3月 3日(月)振替休日
- 3月 24日(月)終業式
- 3月 26日(水)入学予定者登校日
- 4月 8日(火)始業式
- 4月 9日(水)入学式・入寮式